

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第 23 陣の記録 日 ASEAN 学生会議 対象国：ASEAN10 か国、東ティモール

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、ASEAN10 か国（インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス）及び東ティモールの大学生 132 名が、2019 年 2 月 19 日～2 月 26 日の日程で来日し、「日 ASEAN 学生会議*」に参加しました。

日本人学生(11 名)を含む参加国の大学生らは、「持続可能な世界の実現のためにアジア諸国の青年ができること」を共通のテーマとして、課題別による 6 つのグループに分かれ、グループ A は「イノベーション(農業)」、グループ B は「エネルギー」、グループ C は「都市(防災と街づくり)」、グループ D は「保健(健康)」、グループ E は「ジェンダー」、グループ F は「雇用・保健・都市(高齢化)」を課題としてプログラムを実施しました。グループ A～C は東京都、宮城県、グループ D～F は東京都を訪問し、それぞれの課題に関連した講義の聴講、関連施設の視察、関係者との意見交換、ワークショップなどを行いました。本プログラムを通じて、将来を担う参加国の青年は、各課題に関する日本と各国の現状を共有し、問題解決に向けてワークショップを行うことで、社会貢献の意識を醸成し、日本と参加国間の相互理解と参加者同士の友情を育み、日本についての理解を深めました。帰国前には、外務省への表敬訪問を行い、会議の成果として「行動宣言」を提出、成果報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】 11 か国・132 名（各国 12 名）

【訪問地】 東京都（132 名）、宮城県（66 名）

*本年の「日 ASEAN 学生会議」は、東京大学の学生を中心に組織される NPO 法人「MIS (Multilateral Interaction with Students)」の協力を得て実施されました。

2. 日程

2 月 19 日（水）

来日、【オリエンテーション】、【日本・ASEAN 概要の聴講】講師：ASEAN 事務局

2 月 20 日（木）

グループ A：【日本理解講義の聴講】講師：東京大学准教授 荒木 徹也 氏

グループ C：【日本理解講義の聴講】講師：アジア防災センター主任研究員
児玉 美樹 氏

グループ D：【日本理解講義の聴講】講師：東京大学教授 神馬 正峰 氏

グループ E：【日本理解講義の聴講】講師：Gender Action Platform 理事
斎藤 万里子 氏

グループ F：【日本理解講義の聴講】講師：和光大学教授 加藤 巖 氏

全グループ：【ワークショップ】

2月21日(木)

グループA:【課題別講義の聴講】講師:(株)ファームシップ 安田 瑞希 氏

グループB:【日本理解講義の聴講】講師:東京大学特任助教 山口 健介 氏

グループC:【課題別視察】東京臨海広域防災公園そなえりあ

グループD:【課題別講義の聴講】講師:東京大学 准教授 近藤 尚己 氏

【課題別講義の聴講】講師:厚生労働省(健康課・国際課)

【視察】東京大学本郷キャンパス

グループE:【課題別講義の聴講】講師:内閣府(男女共同参画局)

グループF:【課題別視察】柏市豊四季台団地

【課題別講義の聴講】講師:厚生労働省(年金局、老健局、職業安定局)

グループA、B、C、E:【ワークショップ】、

グループA、B、C:東京都から宮城県へ移動

2月22日(金)

グループA:【学校交流】宮城県農業高校、【課題別視察】美田園ファーム

グループB:【課題別講義の聴講】東松島市 エネルギー事業

【課題別講義の聴講・現場視察】石巻市 エネルギー事業

グループC:【課題別視察】石巻市復興まちづくり情報交流館、女川町(語り部ガイド)、【課題別講義の聴講】女川町役場

グループD:【課題別講義の聴講】講師:JICA 人間開発部 吉津 智慧 氏

【課題別視察】株式会社ヤクルト

グループE:【課題別講義の聴講】講師:日本女子大学現代女性キャリア研究所

教授 大沢 真知子 氏

グループF:【課題別講義の聴講】講師:株式会社ライフシフト エグゼクティブ

コンサルタント 佐藤 勝彦 氏

全グループ:【ワークショップ】

2月23日(土)

グループA:【課題別視察】(株)GRA(ミガキイチゴ)

グループB:【課題別視察】女川町(語り部ガイド)

グループC:【課題別講義の聴講】講師1:(株)街づくりまんぼう 三浦 悠 氏

講師2:(一社)ISHINOMAKI 2.0 勝 邦義 氏

グループD:【ワークショップ】

グループE:【課題別講義の聴講】講師:NPO 法人ジェンダーイコール代表理事

田淵 恵梨子 氏

グループF:【課題別講義の聴講】講師:明治学院大学 チャレンジコミュニティ大学

総合企画室社会連携化課長 岩本 千絵氏

グループA、B、C:宮城県から東京都へ移動

グループD、E、F【文化視察】明治神宮、原宿

2月24日(日)【文化視察】浅草寺、【ワークショップ】、【関係者の交流会】

2月25日(月)【ワークショップ】、【成果報告会】

【表敬訪問】外務省 鈴木 憲和 外務大臣政務官

2月26日(火) 帰国

3. プログラム記録写真

【グループA:イノベーション(農業)】(訪問地:宮城)

	
<p>2月21日【課題別講義の聴講】 株式会社ファームシップ</p>	<p>2月22日【学校交流】 宮城県農業高校</p>
	
<p>2月22日【課題別視察】 美田園ファーム</p>	<p>2月23日【課題別視察】 株式会社 GRA (ミガキイチゴ)</p>
	
<p>2月24日【ワークショップ】</p>	<p>2月25日【成果報告会】</p>
<p>【グループB:エネルギー】(訪問地:宮城)</p>	
	
<p>2月22日【課題別講義の聴講】 東松島市 エネルギー事業</p>	<p>2月22日【課題別講義の聴講・現場視察】石巻市 エネルギー事業</p>

	
<p>2月24日【関係者との交流会】</p>	<p>2月24日【ワークショップ】</p>
	
<p>2月24日【文化視察】浅草寺</p>	<p>2月25日【成果報告会】</p>
<p>【グループC:都市(防災と街づくり)】(訪問地:宮城)</p>	
	
<p>2月20日【日本理解講義の聴講】 アジア防災センター</p>	<p>2月22日【課題別講義の聴講】 女川町役場</p>
	
<p>2月23日【課題別講義の聴講】 街づくりまんぼう</p>	<p>2月23日【課題別講義の聴講】 ISHINOMAKI 2.0</p>
	
<p>2月24日【ワークショップ】</p>	<p>2月25日【成果報告会】</p>

【グループD:保健(健康)】(訪問地:東京)

	
<p>2月20日【日本理解講義の聴講】東京大学</p>	
	
<p>2月21日【課題別講義の聴講】 厚生労働省</p>	<p>2月22日【課題別講義の聴講】 JICA</p>
	
<p>2月22日【課題別視察】 株式会社ヤクルト</p>	<p>2月25日【成果報告会】</p>

【グループE:ジェンダー】(訪問地:東京)

	
<p>2月20日【日本理解講義の聴講】Gender Action Platform</p>	
	
<p>2月21日【課題別講義の聴講】 内閣府</p>	<p>2月22日【課題別講義の聴講】 日本女子大学現代女性キャリア研究所</p>



【グループF:雇用・保健・都市(高齢化)】(訪問地:東京)



全グループ (訪問地:東京)





2月25日【表敬訪問】外務省 鈴木 憲和 外務大臣政務官
https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/rc/page25_001844.html

4. 参加者の感想（抜粋）

【グループA：イノベーション（農業）】

◆ シンガポール大学生

講義では食品の起源とその歴史的背景について、また、私たちが今日知る食品がどのように出来たのかについて良く学ぶことができました。大学を訪れ、キャンパス内を歩き、そして日本人大学生が私たちと一緒にこのプログラムに参加してくれたことで、日本の教育制度について理解を深めることができ、少しではありますが、日本の学校生活を体験することができました。農業分野の企業訪問を通し、私たちは会社を創設したパイオニアの何人かと会うことができました。その方たちの経験を共有し、彼らの長い実生活で本当に起こった事柄を教えてもらったことにより、農業について見識を深めると共に、偉大な会社を作るために何がなされたのかについて学びました。また、地域社会がどのようにその事業から恩恵を受けているかも聞きましたが、そこで触れた彼らの情熱によって、私たちが学んでいるもの、見ているものがより生き活きとしたものとなり、それは今回のプログラムへの参加の思いがけない贈り物となりました。

◆ 東ティモール大学生

私が空港に着いて最初に学んだのは、日本人は時間に正確で、貴重な時間を1分でも無駄にするつもりはないということでした。この会議期間中、私は農家がどのように ICT（情報通信技術）を活用するのか、また、素晴らしい戦略を以て農作物を生産し、多様なチャンネルを通じて流通を行う様子に大きく印象付けられました。また、最も印象的だったのは、日本の高校生が、大変積極的に理論と実践の学びのバランスを取っている様子でした。それらを垣間見たのは農業を専門とする宮城農業高校を訪問した時でした。彼らは自分たちの農作物を国内で販売するだけでなく、オーストラリアにも輸出までしていました。そしてもちろん、この JENESYS プログラムは、私が農業を学ぶにあたって大きな一助となるものでした。

◆ マレーシア大学生

私は日本での会議参加に大変満足しています。講義の時間には日本の農業や日本の歴史について多くのことを知ることができました。ワークショップの時間に、他の参加者とより親しくなり、友達になりました。更に、先進的な農業管理や植え方や、収穫の仕方、また

環境をどう維持していくかについて知ることができました。日本の食文化に貢献する大豆や発酵の行程について学んだだけでなく、宮城県仙台市でとても大切な食料についても学びました。高設栽培については、初期費用がとても高いのでマレーシアでは有名ではありません。しかし、農場や高校を視察し、農業機械を見て、目を見張るような素晴らしい経験ができました。彼らは仕事に強い情熱を持ち向上しようとしており、同時に地域に恩返しをしようと考えていました。また、流通経路についても学ぶことができました。それぞれの国の農業が拡大し、人々が農業にもっと関心をもってもらえるとうれしいと思いました。このプログラムでかけがえのない経験や貴重な思い出を作ることができました。

【グループB：エネルギー】

◆ カンボジア大学生

このプログラムでは講義だけではなく他の参加者との話し合いから多くの事を学びました。日本人は礼儀正しく穏やかで努力家であることも学びました。私もそのようになりたいです。ですから頑張って全ての人に親切でありたいと思います。二点目は東京の高層ビルです。全ての建物に耐震技術が施されているという事には驚きました。最後に、日本文化と日本人の物腰について、とても親切で思いやりがあると感じました。

◆ ラオス大学生

このプログラムで提供された講義ではエネルギー、災害からの復旧、日本人の被災者の暮らし等、多くの知識を得る事が出来ました。これらの知識を学業や将来の職場で活かしたいと思います。専門的な事柄の他、日本人が手を取って協力しているのには感銘を受けました。多くの国が日本から学ぶべきだと思いますし、参加者としてこの知識を他の人たちと共有するように最善を尽くしたいと思います。

◆ シンガポール大学生

ミャンマー電化事業についての講義には驚嘆しました。私は常に電化の進展は人々の生活を良くするものと思っていました。しかしそれは人々の生活に付加価値を与えるような電気の使い方によるのです。石巻市では、多くの場合、市民は街作りを行政に頼っていますが、市民が市の再生を方向づけるのだという事実に感銘を受けました。また、女川町の復旧のスピードには驚きました。交流館は高齢者を元気に、そして孤独にしないようなプログラムを行っているのを見て心温まる思いでした。

【グループC：都市（防災と街づくり）】

◆ シンガポール大学生

最も印象に残ったことは日本人の気質です。確かに災害についての歴史や現在行われている防災対策を学ぶことは興味深く有用でした。しかし、外国人にとってそれは単に良い知識でしかありません。日本の技術に触れる機会やこのプログラム中に会った人々との新しいネットワークはもちろんです。やはり最も心に残り、敬意を持ったことは日本人の高い意識です。講義を通してそれは明らかで、若者も年配者も同様に自分たちのコミュニティをより良くすることに関わっていることが分かりました。講義をしてくれた人々だけでなく参加者の日本人学生も常にプログラム中、積極的に関わっていました。今後もこのような素晴らしく学びの多いプログラムが継続され、リーダーシップある学生が選ばれることを心から願っています。

◆ 東ティモール大学生

このプログラムはとても有益で思い出深いものでした。多くの経験をする事ができました。日本人のマナーやライフスタイルについて学びました。他国からの新たな友人を作る

こともでき、東京、女川、宮城で本当にたくさんの思い出を作ることができました。このプログラムを通して、災害リスクに対する思いや情熱がさらに強くなりましたし、伝統文化にも感銘を受けました。さらに、他の国の言葉を知ることも出来ました。このプログラムはとても貴重な経験が出来るものですので、今後もずっと継続され、私と同様の機会を他の学生も得ることができるよう心から願っています。また、日本人の生き方についても学ぶことができました。とてもエキサイティングでもあり、平和でもあります。私にとって、東京はとてもすごい場所です。町はきれいで多くの製品が環境に配慮した製品です。日本での1週間の滞在は全てが便利でした。また日本を訪れたいと思います。今回の日本への訪問が、今までの海外経験の中で一番心に残るものとなりました。

◆ シンガポール大学生

アジア防災センターの講義が非常に勉強になりました。特に、減災対策についての知識を得ることを出来たことが理由です。このプログラムへ参加する前は、災害時のリスクを減らすことについて知りませんでした。私の母国は長い間、大きな災害を経験していませんが、それでも何かできることがあることが分かったことが特に良かったです。東京大学でのワークショップでは、問題に対して課題を見つけ、自分たちのプロジェクトにあった議論が同じチームのメンバーとできたことも実りあるものでした。女川町役場で、町長にお会いできて、大事な問題について質問した時、答えを直接頂くことができたのが非常に有益でした。

【グループD：保健（健康）】

◆ ラオス大学生

全ての講義から今まで学んだことのない知識を得ることができました。その中で、日本のみならず世界の国々が直面している状況を知ることができました。また、自国での社会福祉活動に応用できるアイデアを思いつきました。東京大学は、機会があれば是非、留学して学びたいと思う素晴らしい大学でした。学生の能力を高めるような施設がたくさんあります。このプログラムに参加して、バックグラウンドの違うすばらしい参加者と出会い、友好を深めることができ大変有意義でした。

◆ ベトナム大学生

東京大学での講義とワークショップはすばらしいものでした。講義を受けてワークショップにのぞむ学生たちが、問題を解決するスキルを自然と学べるような効率的なプログラムが実施されました。東京大学は素晴らしい大学でした。大学の施設や研究プロジェクトは、ここで学びたいという大きな夢を抱かせてくれるようなものでした。ヤクルト本社は、すばらしい企業で、交流プログラムでは絶対に訪れるべき場所だと思いました。ヤクルトの起業精神やビジネスモデルが今でも受け継がれているのはすばらしいです。将来のビジョンやビジネスモラルについて多くを学ぶことができました。

◆ インドネシア大学生

UHC（国民皆医療保険制度）に関することと JICA の講義に最も深い印象を受けました。この制度は、インドネシアはもちろん、他国においても状況改善に役立つと思います。厚生労働省での講義でも取り上げられた、ジャパンヘルス 21 についても学びました。プログラム中は、日本の文化を学んだり、日本人と交流することができて嬉しかったです。

【グループE：ジェンダー】

◆ 東ティモール大学生

講義は全部素晴らしかったです。グループディスカッションでは、問題を解決するために

自分の限界以上に思考を巡らせることができました。学校交流は、日本の教育制度がどのように実施されているのかを知ることができ、人生を変えるような経験でした。国を越えて友達を作ったことはすばらしく、JENESYS のようなプログラムだからこそできたことだと思います。

◆ タイ大学生

一番印象に残ったのは、国連がジェンダーの平等を達成するために掲げた SDG 目標 5 を扱った最初の講義です。(SDG 目標 5 は) 良い計画だと思いますが、ジェンダーを男か女かの 2 つでしか扱っていないので、ジェンダーの多様性を含む内容に改善すべきだと思います。また、ほかの講義後に行ったワークショップで最も印象的だったのは、グループの仲間と一緒に共通課題の解決策を考えた作業でした。討論して、各国で異なる事情に気をつけなければならないことを実感しました。このことから、東南アジア地域で民主主義の価値観を広めなければならないと痛感しました。平等は民主的価値観の一つであるため、非民主体制からは発現することがないからです。都内視察では、スキンケア商品や化粧品がタイよりも安いことを発見しました。

◆ ミャンマー大学生

数日間でしたが日本で学ぶことができ、とても充実感に満たされています。講義を受け、ジェンダーの平等、そして日本の男女平等の問題について理解を深められました。ワークショップでは、他国の参加者とすぐに打ち解け、違う背景から来る異なった視点を知ることができました。他の講義からも、日本や ASEAN 諸国の男女平等に関する課題・問題について学びました。また、日本では道路、駅、大学のキャンパスをはじめあらゆるところが清潔できれいでした。日本人は皆、時間を守り、勤勉だと思いました。日本に来て、日本がなぜ先進国になったのか、その理由がわかりました。日本人は皆、一所懸命に働き、時間を守るからです。日本人、そして ASEAN 諸国の参加者から、自国社会のために役立つ多くのことを学びました。

【グループ F：雇用・保健・都市（高齢化）】

◆ 日本人大学生

全ての講義から高齢化社会への対処法について新しい見識を得ることができました。総合的に高齢化社会への解決策を考えるためとても有益でした。特にチャレンジコミュニティ大学が実施する活動が素晴らしかったです。継続教育の機会を提供するだけでなく卒業後のネットワーク作りの機会を提供していました。この大学を卒業した高齢者による活動には若い世代対象の講義も含まれていることに感動しました。なぜなら若者も高齢者と一緒に課題について協議できるからです。盛りだくさんのプログラム内容に加えて様々な経歴のアセアン諸国の参加者とお互いに意見を共有し、理解を深める機会を JENESYS に参加し得ることができました。アセアン各国が抱えている可能性や課題、その背景、政治のシステムや文化などについても学ぶことが出来ました。このような貴重な機会をいただいたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。

◆ シンガポール大学生

講義で最も印象深かったことは、日本が高齢者の老後の生活を心地よく活動的に送ることができるように実施している仕組みでした。年金制度やコミュニティ大学なども含まれません。柏市を訪れた時に、高齢者の生活の質を最大限に高めるための都市開発をどのように計画したかを視察できたことが印象深かったです。建物の設計に工夫がなされ、アメニティの配置への細かな配慮は驚くべきものでした。最後にワークショップでは、高齢者の生

活という点においてアジア諸国が直面している問題について議論したことです。地理的、文化的、経済的にそれぞれの国が異なる状況や多くの問題に直面していることを知れたことは目を見張るような体験でした。

◆ タイ大学生

アセアン諸国の若者が一緒に話し合いながらことが出来たこのプログラムはとても有益で重要だと思いました。学ぶことや社会と共有することについてより意識するようになりました。会議や協議を通してリーダーとしてのスキルや伝達スキルを向上させることが出来ました。関係者もとてもプロ意識が高く、私も将来は彼らのようになりたいと思います。友人ともとても仲良くなれ元気に過ごせました。日本での素晴らしい思い出を絶対に忘れません。

5. 受入れ側高等学校の感想（抜粋）

◆ 学校関係者（宮城県農業高等学校）

構内を一つ一つ見ていただきながら、参加学生の皆さんに関心を寄せていただくことが出来ました。また、食することで交流が積極的に行われ、食を通して日本の食文化を理解できたこともよかったです。食文化の理解を理解する上で、機会があれば、次回はASEAN地域の食文化等の紹介もあれば、より交流が深まると思います。

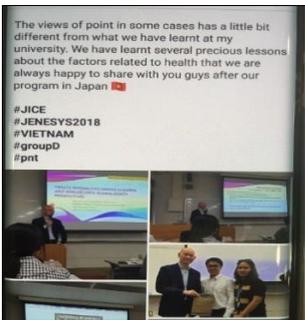
◆ 高校生（宮城県農業高等学校）

初めて海外の人と関わる機会を持ちました。初めは伝わらない言葉の中でどう関わったらよいか不安でしたが、交流するにつれて不安はやがて楽しい気持ちに変わりました。言葉は伝わらなくても表情や感じ方は同じでした。この経験を忘れずに、人と関わりを大切にしていきたいと思います。

◆ 高校生（宮城県農業高等学校）

餅つきでは和やかな雰囲気、日本文化と私たちの学校の良さを、海外の皆さんに伝えられて、私たちも楽しく交流が出来ました。この経験を今後活かしたいです。私たちにとって、今回の交流はとても貴重な経験になりました。

6. 参加者の対外発信

	
<p>(Group A 学生) この国際的な会議を終えて、達成感を得る一方で、初めて出会って、一緒に思い出を作った仲間にさよならを言わねばならない時がきました。あなた方のお蔭で日本はとても興味深く、楽しかったです。また会いましょう。</p>	<p>(Group B 学生) 東松島市の復興の様子、スマート防災エコタウンです。日本の技術は凄いです。</p>
	
<p>(Group B 学生) 新蛇田太陽光発電所の太陽光パネルは、非持続可能エネルギーに代わる良い方法です。</p>	<p>(Group C 学生) 東京臨海防災公園は、首都圏の防災オペレーションの中心的な拠点。災害現地対策本部が置かれる地域の防災管理ヘッドクォーター及び防災関連情報のとりまとめと防災応急対策の調整をする機関です。</p>
	
<p>(Group D 学生) 自国での学びとは違う観点がありました。健康に関連する要因について貴重な教訓を得ました。</p>	<p>(Group E 学生) 東京大学にて男女共同参画についての討議をしました。男女共同参画とは女性だけでなく、人間のための戦いだと思います。</p>

<p>Jenesys 2018 Japan-ASEAN Students Conference - Philippines is with Jayjay Tenerife and Nica Galang 22 February at 16:49</p> <p>This morning, Katsuhiko Satoh, a visiting Professor of Tama Graduate School of Business in Tokyo, an Executive Consultant of Life Shift and a former President and CEO of Ford Japan discussed about the Elderly Employment situation in Japan.</p> <p>#JENESYS2018 #JICE #Japan #Philippines #Batch23</p> 	<p>NESSYS Aging Society Committee Jenesys 2018 - Batch23 Published by Sitheak Ban (1) · 21 Feb ·</p> <p>February 21, 2018 - Visiting Housing Complex - Kashiwa</p> <p>In response to the increasing demographic crisis, the city of Kashiwa, Chiba Prefecture was turned into an aged-friendly community geared toward the senior citizens. The city comprises of home care facilities available 24 hours a day, housing complexes that incorporate workplaces, and other facilities designed with the aged in mind. In addition, there is a community restaurant where residents can socialize and work.</p> <p>#JICE #JENESYS2018 #JASC</p> 
<p>(Group F 学生) 今朝は多摩大学大学院 MBA の特任教授、(株)ライフシフト エグゼクティブコンサルタント、フォード・ジャパンの元 CEO の佐藤勝彦先生から、日本の高齢者雇用の現状についてお話を伺いました。</p>	<p>(Group F 学生) 柏市の団地を訪問しました。高まる人口危機への対応策として、千葉県柏市では、高齢者にやさしい高齢者向けのコミュニティを作るべく舵を切りました。ここには、24 時間対応可能な訪問介護、高齢者が働ける場を備えた公共住宅など、高齢者のことを考慮して設計された様々な施設があります。また住民が交流を深めたり、働くことのできるコミュニティレストランもありました。</p>

7. 行動宣言・帰国後の活動発表（抜粋）



The collage includes the following elements:

- Project REED:** A circular diagram with three steps: 1. Sharing on knowledge of better agriculture management and its implementation; 2. Achieve sustainable agriculture which results in stability and profitability; 3. More positive influence to our family, friends & community.
- JENESYS 2018:** A banner with the text 'RURAL ELECTRIFICATION IN TERBUNGRONG, BRUNEI' and flags of participating countries.
- PROJECTED IMPACT:** A list of goals: 'To provide people-centered, proactive and practical help to victims of disasters through psychological first aid.', 'To organize and train youth volunteers who will serve as front liners of psychological first aid.', 'To establish a facility which will serve as a psychotherapy center where disaster victims could seek help.', 'To serve as a research and training facility in creating immediate interventions for people who are in an extremely stressful events.'
- Group cooking sessions on a weekend:** A poster showing people cooking and text: 'INCENTIVES COUPON 15% OFF', 'FAST HEALTHY FOOD DELIVERY', 'INCREASED FAMILY BONDING + HEALTHY COOKING'.
- POLITICAL EMPOWERMENT OF WOMEN IN THAILAND:** A poster with the text 'TACKLING THE PROBLEM AT THE ROOT CAUSE' and icons for 'Political Empowerment', 'Economic Growth', 'Healthcare', 'Education', 'Sustainable Development', and 'Gender Equality'.
- FEATURES OF MIRAI:** A circular diagram with four quadrants: Health Centre, Activity Centre, Learning Centre, and Employment Centre.

【グループ A：イノベーション(農業)】農家やその他の関連産業を収益性のある魅力的なキャリアにすることで、その存在感を高めることに取り組みます。若い世代にアピールするための第一歩として、最先端技術を利用し、農業における各工程をより簡単に、より魅力的にすることを提案します。

【グループ B：エネルギー】農村地域における非電化問題を解決するために、国際的なコンペティション大会の実施を提案します。また、ワークショップや講義を通して人々の意識を高めることを含む、長期プロジェクトも実施する予定です。

【グループ C：都市(防災と街づくり)】若者と地域コミュニティが防災について意識

し、日常生活の中で地域の人々との絆を強める機会を作ることを奨励することによって、Community-based Disaster Risk Reduction (CBDRR)に全力で取り組みます。

【グループD：保健(健康)】教育の充実および起業家精神の啓発に繋がる2つの解決策を提案します。1つは、親が子供と一緒に健康的な食事の料理方法を学び、それが促進されるような週末勉強会です。もう1つは、精神的な苦痛へ注意喚起し、苦痛を軽減し、安寧をもたらすことを目的としたイベント、“Mental Health Festival”です。私たちは、経済格差により生じる健康問題を解決することを約束します。

【グループE：ジェンダー】さまざまな手段で女性に力を与えることによって、男女格差を減らすことを目指します。具体的には、女性インフルエンサーの雇用によるマスメディアを通じたジェンダーの固定観念の解消、男女平等リテラシーを広めるためのNGOとの提携、政治分野に入るために必要なスキルを女性に提供するためのコンサルティングセッションの実施等、タイの現状を引き合いに出して提案します。

【グループF：雇用・保健・都市(高齢化)】自律的に自分たちの生活を改善することができるような、コミュニティに根ざした高齢者組織の構築を提案します。それによって、高齢者による他世代への依存脱却と若者の動機づけ、高齢者に関する知識交換を促進し、経済的な安定を達成します。私たちは、高齢者が評価され、大切にされる社会の実現を約束します。